

校長通信（12月号）

December 24th / 2024 / VOL 026

誰かのために生きてこそ

「八天堂」のクリームパンをご存知でしょうか。むしろ食べたことがあるでしょうか。クリームパンの常識を覆すような、ぎっしり詰まったクリーム、濃厚な生クリーム・カスタード・抹茶・チョコレートクリーム、しっとりとしたパン生地。2008年に発売開始した「冷やして食べるクリームパン」は、パンの領域を超えて、「スイーツパン」というジャンルで瞬く間に全国区の人気商品となりました。（僕も食べたことがあります。美味しすぎてカルチャーショックを受けました。）八天堂は、現在では全国26店舗を展開するとともに、海外5カ国にも店舗を広げる成長を続ける企業となっています。ただし、八天堂は、決して順風満帆な道のりを歩んできたわけではありません。

八天堂の創業は1933年。現社長である森光孝雅氏の祖父である香氏が、和菓子店として「森光八天堂」を広島県三原市に開店しました。3代目となる森光孝雄が社長となり、有名パン屋での修業を経て、26歳の時「たかちゃんのぱん屋」として八天堂をリニューアルオープン。コンビニ等もまだなかった時代、孝雅社長のパン屋は、早朝から開いており、朝帰りや早朝出勤をする方をターゲットとして成功することになります。10年足らずで13店舗にまで急速に拡大し、売り上げは年間4億円に上るまでに成長しました。まさに飛ぶ鳥を落とす勢いといった大成功を収めたということになります。

そして、歯車が狂い出します。コンビニができ始めたことで、顧客を奪われ、赤字に転落し、従業員も去っていきました。急速な拡大で人手が不足しているがゆえ、長時間労働を強いることになり、すぐ離職してしまいます。店舗を経営するためには、孝雅社長自らが数店舗を回り、自らパンを焼かないと追いつかないという危機的な状況でした。睡眠もろくに取れず、疲労困憊の中、車を運転したことで事故を起こしたこともありましたが、幸い対人被害はありませんでしたが、本人は脳震盪を起こして首を痛め、口も血だらけに。それでも孝雅氏は病院にも行かず、お店でパンを焼き続けたそうです。

しかし、経営状況は改善せず、銀行からは見放され、弁護士からは破産の手続きをするように進められることに。もう終わりだと絶望の淵に立たされた時、栃木県でパン屋を営む弟から電話がありました。自分の無謀な経営をボロクソに批判されるだろうと思っていたところ、「俺の2000万円を使ってくれ」という言葉をかけられました。孝雄社長は涙が止まらなかったそうです。

急な成功を収め、自信過剰となっていた孝雄社長は、大切なことを見失っていたといいます。会社は急速に拡大はできましたが、地に足がついていなかったのです。そこから利益をいかに上げるのかを意識するよりも、自分以外の「誰かのため」ということを強く意識するようになりました。目の前の一人一人のお客様のため、一生懸命働いてくれる仲間たちのため、そして、地域の未来に対して、会社を営んでいく覚悟を決めるのです。その中で、不退転の覚悟で開発したのが「八天堂のクリームパン」であり、全国的なブランドに成長することになります。

人はどうしても自分のやりたいことを優先しがちです。昨今の日本社会の課題として、他者に対する共感生の低さや、利己的な考え方、他者への無関心ということが挙げられます。人は社会性を持った生き物です。他者との関わりなしに生きていくことは不可能です。同時に他者に対して役に立てた時、他者の幸せに貢献できた時、私たちは幸せを感じることができます。これからの未来、「誰かのために生きる」ことの大切さが、これまで以上に重視される世の中になっていくのだと思います。

スクールドッグの活躍が校外に広がっています。

以前から活躍しているスクールドッグのアンディとカールですが、メディアの取材や、他校からの視察等が多くなってきています。本校の公式SNSでの発信を通して認知が急拡大し、スクールドッグを同じように取り入れたいという学校も増えてきています。ただし、なかなか導入にはハードルも多く、懸念点や反対意見も多いのが現状のようです。世話はどうしているのか、夜や休日はどうしているのか、アレルギーがある生徒への対応、噛み付いたらどうするのかなど。幸いなことに、本校ではこれまでに大きな事故やトラブル等は一度もなく、むしろ生徒たちの精神面の支援、不登校傾向のある生徒の支援等を通じて、登校を再開することができ、教室に戻ることができるようになった生徒もいます。さらにその生徒たちが、将来は動物に関する職業に就くような進路選択を行うなど、期待していた以上の効果も出てきています。

こうした取り組みを継続するとともに、全国にも広められるような役割を果たしていきたいと思えます。そして、犬が学校にいたることが当たり前な社会になって欲しいと心から願っています。



国際ポエトリー交流プログラム

本校が10年以上前から行っている国際ポエトリー交流プログラム（IPEP）で、1年ぶりの参加となります。日本、韓国、フィリピン、オーストラリア、アメリカの5カ国がオンラインで繋がり、独自創作の詩をそれぞれ朗読するというプログラムです。元駐日大使のキャロライン・ケネディ氏も参加する同イベントは、アメリカで対面のイベントを開催することもあり、そのポテンシャルは大きいと言えます。本校の生徒も詩の朗読を一生懸命行っていました。今後もぜひたくさんの生徒に参加して欲しいイベントの一つです。



KIC1年留学生在が帰国しました

Kardinia校へ1年留学していた2名の生徒が帰国しました。コロナの制約もなくなり、1年を通してマスクのない学校生活が送れるようになりとても充実した期間を過ごすことができました。現地では、日本文化を紹介するイベントを開催し、空手や日本食を紹介するなど、現地でしかできない経験や学びをすることができました！



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。2024年もいよいよ残すところあと10日となりました。大きな事故もなく、こうして年末を迎えられることを心から嬉しく思います。

とはいえ、2024年も非常に多くの出来事がありました。良いことも、悪いことも、嬉しいことも、悲しいことも、本当に多くのことが起こりました。多くの学び、経験、出会いがあった一方で、失敗や挫折も多くあったと思います。そのどれもが、今につながっており、それぞれの一部となっています。これからも、さまざまな困難や壁を乗り越えて、自分自身を理解し、他者を理解し、少しずつ成長をしてもらいたいと思います。

2025年も生徒、そして保護者の皆様にとって素晴らしい一年になることをこころより祈っております。よいお年を。

